



蓬田

村の人口

51. 6. 30 現在

人 口	男	2,258
	女	2,354
	計	4,612

世帯数 996

編集と発行 蓬田村公民館 第103号

S 51. 8. 1



小学校運動会 父母の二人三脚

運動会

小学校の運動会が六月三日に行なわれ、子どもたちは元気ではつらつとした姿を、親たちに見せようとハッスル。

親も自分の若い頃を思いだし、子どもにカッコのいいところを見せようと、またくハッスル、二、三日は体が痛くて、常日頃の運動不足をなげく、普段から軽い体操で、体を動かしていたいものである。

村が全国表彰される

この度我が蓬田村が全国町村会より栄ある優良町村の表彰をいただきました。これは即ち村の名譽であります。

この偉業を永久に後世に伝えるため、玉松台上に記念碑を建立しました。これも村民一人一人が村発展のためにがんばった結果と思われまます。

除幕式は七月八日十時より玉松台上においておこなわれました。



玉松台海水浴場開き

海水浴場開きが七月二十日午前十時より玉松台公民館で海水浴場開きがおこなわれました。

七月二十日から
八月二十五日まで



村民体育大会開催のお知らせ

来たる八月八日午前九時より総合グラウンドにおいて村民体育大会を開催することになりました。

トロフィーを贈ることになっております。村民の皆様がごぞつて参加下さるようお知らせいたします。

大会内容は今年各種目ごと

川内儀一郎氏発見の象の化石

倉谷弘孝

川内儀一郎氏(阿弥陀川)が、化石を私のところに持ってきたのは二年前である。その化石(図1)は私などみたこともない重々しさを持つていた。長さ約二十四センチ、横十二センチ、厚さ約八センチある。折れているところは海綿状になっており、化石自体は石炭をおもわせるように黒光りしていた。

何の化石であるか私には皆目見当がつかなかったので、専門家に鑑定してもらったことになった。

川内氏は富山県砺波市の道路工事の仕事にたずさわっていた。トラックは次々と土砂を運んでいる。空は稀なるあい色になり、日本海からの風は労働の中におりおり生気をもたらししている。いつもなら仕事に無中になり砂利等に気をとられることはなかったのに、この日に限ってふと地面に目をやると、河原石とも違う大きいものに気がついた。山から持ってきた土砂であるけれども、ホタテ貝もあたりに散らばっている。手にとってよく見るとまさしく化石であった。心はずみ、化石を大事にとりみんなに見せた。だが、仕事に携わっている多くの人はげげんそ

うな顔をするだけだった。しかし探検心のある川内氏は、化石を大事に蓬田村まで持って帰ったので



1

2

ある。

今年三月、ようやく国立科学博物館古脊椎動物学研究室、理学

博士長谷川善和氏に会うことができ鑑定してもらった。

鑑定書には「破損がひどいので確かなことはいえない。大きな(恐らく象のような)動物の尺骨(図2)のひじ関節の部分である」と書かれてあり、長谷川博士は、慎重な態度をとられております。私は助手が多数の動物の骨格とこの化石を比較してみるのに同席したのだが、似ているのは現代の象の骨格だけであった。現代の象の骨格と似てはいるが化石は、やはり古代の様相を示していた。

日本に古代にいた象といえはナウマン象が思い出される。この頃日本は大陸につながっていた。化石の年代はいつ頃かというところの出土した地層を見ることができないのはつきりいえないが、長野県長尻湖出土のナウマン象の化石を例にとった場合、紀元前二万一千六百年プラス・マイナス九百年という数字がでていことから、この頃と見てさしつかえないであろう。

このような貴重な化石を個人で持っている人はまずいない。蓬田村内にナウマン象の化石が保存されているという事は、私共にとってもよろこばしいことである。と同時にこの化石をもたらし川内儀一郎氏に感謝するしだいであります。



女性ランナー

村内トピック



青年団駅伝大会優勝蓬田青年会



体育協会総会



農民米価パレード



葉たばこ実験

青森県農業青年

西ヨーロッパ視察報告

③

森 秀夫

しかしながら、この国でも問題がないわけではない。能力がありながら重税で暮さなければならぬ為、この国の優秀な頭脳が、アメリカとかの海外へにげてしまうという問題もある。また少数のブルジョアも重税の網の目をくぐり暮している現実もある。このように高度の福祉国家に成長した原因は、中立非同盟主義をとり、一八〇〇年代以来、戦争に荷担しなかった事と、自然に恵まれていることが主な原因である。スウェーデンを含めてのスカンジナビアの諸国は互い民族意識が強く、心の底には微妙な国民感情がある。スウェーデンはデンマークを小国であり、われわれの国の方が広大な土地をもっていると考えている。一方デンマークは、スウェーデンはかつてわれわれの支配下にあった国でスウェーデン人は田舎者だというふうに考えているのである。

講義の途中ここの組合連合会がつくった生ジュースをもちそうになった。講義を終えてから連合会の会長さんが、マルメ市内を案内してくれられた。街をながめると、電柱のないのに気がつく。街の美観を保つために地下を通してあるの

だ。とにかくあき地というあき地は全て芝生で敷きつめられ整然としている。

スウェーデン滞在の二日目は、スコーネ地方のピアフィヨー実験農場を見学。案内人は場長のアーサーエイダソンである。金髪でちょっと太りぎみで、いつもニコニコしている。農場の三〇〇haの作付は飼料用作物が一七〇ha、草地が五五ha、残りが森林である。飼料用の畑には春秋小麦をつくっており、ha当り春秋小麦四五〇〇キログラム、四〇〇〇キログラムである。そしてこの乳牛の数は二六〇頭そのうち子牛が一五〇頭、豚が一八〇〇頭、にわとりを五〇〇〇羽飼育している。そしてこの農場の目的は生産量をいかにして高めるかという研究をしている。ここの牛の平均乳量は六七〇〇キログラムで最高が一萬二〇〇〇キログラムの牛もいる。われわれはその牛を見たのであるが、乳房の大きいこと、地面につくくらしい大きいので、ブラジャリーをしているのである。繁殖については自然交配が九〇%で、人工受精が一〇%。自然交配が多い理由は広い土地での放牧なので労力がかからないためだ。そのため

に人工受精についての研究はあまり進んでいない。豚については、各飼料会社の比較試験をしている。品種はヨーロッパ一五%、スウェーデン産の豚が八五%である。昼は、一七六六年に建てられたレストランで食事である。甘だるいポタージュスープで始まり、ジャガイモ、ライス、トリ肉の入ったシチューでライスはポロポロしたインデカだがおいしい。ガラス



のジョッキには、ジュースが入っている。レモンが浮び甘すっぱい砂糖が入っているようだ。最後にデザートで、リングゴのパイにミルクだ。ここで働いている婦人達にわれわれは、日本のみやげ物をプレゼント。彼女らはいまままでたくさんの方々が食事をしてくれただが、こんなに親切にしてもらったのは初めてだ。そうだとたいへん私達に対して、仏様を拝むように手を合わせて、親しみをこめてお

礼を言ってくれた。まごころとまごころのふれあいのひとときであった。午後は、アイナーショーウストローグさんの農家訪問である。彼は私達を待っていた。長身である。一八〇センチぐらいはあるだろう。やがて奥さんが五才になる長男をつれて来る。青のワンピースを着て美人である。家族はこの外に九才になる女の子がいる。彼の経営は七五haの畑と二五haの牧草地をもち、三〇頭の成牛と四〇頭の子牛をもっている。そして乳しぼりは奥さんの仕事となっている。やがて主人は、農場に案内してくれた。畑は麦を刈りとったあとでコンパインの性能が良いためカロスはほとんどない。冬の飼料はすべて自給している。乾草も非常に品質の良いものであった。

彼は家の中へも案内してくれた。小じんまりとした平屋で庭に芝生があり、その下にリングゴの木があり、その下にテールとイスがある。家の中では奥さんとおばあさんがコーヒートとお菓子を準備してくれていた。おばあさんは、遠く日本からたずねて来たというので朝から手伝いに来てくれたのである。家の中は白いカベにじゅうたんが敷かれてある。部屋に入り、一番先に目についたのは、レストランにあるような真白いテールカパーである。清潔な感じである。

私達にはドアを全部開いて、自分達の寝室、子供達の部屋まで見せてくれた。コーヒートを持ちそうになりながら、彼と奥さんを囲み、そしてむこうの部屋では、おばあさんをかこんで雑談である。

彼は三年前までは学校の先生をしていた。奥さんもまた銀行につとめていたのである。農場はすばらしい職業であり幼い頃からの夢であった。農業に職を変えたい時はもちろん奥さんも協力してくれたのである。彼も彼女もたいへん愛嬌がある。奥さんに日本のピースを吸わせると、かるいタバコだと言っている。むこうの部屋では何を会話しているのかにぎやかである。奥さんは、たばこを吸いながら後を向いて、おばあさんに言う「おばあさん！日本語で話しているの？」おばあさんは、すかさず「ええ！もちろん日本語で話しているの」と答える。奥さんは私達に「皆さんは奥さんをどうして一緒に連れて来なかったか？」と不思議に思っている。彼女は「私達の国では、外出する時はいつも二人で出かける。そして男性も女性もいろんな経験をして見聞を広め、お互いに豊かになる必要がある！」「自分の奥さんを連れて歩かないのは奥さんを愛していないからだ」と言っている。私達はそれに言うことが見つからなかった。

子どもの水死事故をなくしましょう

これから夏にかけて子どもたちは、水泳や釣り、ボート遊びなど、池や川辺、海などでの水遊びが多くなっています。そこで心配されるのが幼い子どもの水の事故です。

今年も四月に入ってから暖かい日が多かったせいか、四月末までに早くも十七件の事故が発生し、七人の幼い命が失われました。

昨年は一年間に七十五人死亡し、そのうち少年(二十才未満)が三十六人も死亡しています。交通事故で死んだ子どもの二十六人に比べると、いかに多くの尊い幼い命が水難事故で失われたかがわかります。特に、毎年七月、八月が多く事故が起っており、水死事故の原因は、母親がちょっと目を離したときに、ヨチヨチ歩きの幼児が庭池に転落死亡したり、三、四人で用水ぜきの近くで石投げ遊びをしていた小学生が、石の泥を洗うため流れに身を乗り出して転落死亡するなど、保護者の監視不十分や、池、用水ぜきなどに対する防護さく、防護施設の不備によるものがあげられます。親のちよつとした油断から自分の家の百メートル内外の所で水死事

- 故が起っているのか現状です。そこでこれらの水死事故を防ぐためには、保護者は子どもの監視を怠らない。
- (1) 子どもの遊びの内容や場所をよくしつておく。
 - (2) 家のまわりにある危険な所は、フタをするかバラ線を張る。
 - (3) 水泳をはじめ、ボート遊び、釣りには一人で行かせない。
 - (4) 水泳をする前には十分準備体操をさせる。
 - (5) 身体具合の悪いときには泳ぎに行かせない。
 - (6) 夏祭りの季節になると、どこの町や村でも、着飾った子どもたちが軒を連ねた屋台店で、花火をせがんでいる姿がみられるようになります。

花火による火災を防ごう

花火は夏の風物詩として大人も子どもも楽しめるものですが、火薬を使っていますから、決められた遊び方をしないと危険です。昨年度の花火による火災は二十一件にのぼり、また、子どものマッチ遊びによる火災は四十七件も発生しております。

事故のない、楽しい夏を過ごすために、次のことをよく守ってください。

- (1) 花火に書いてある遊び方をよく読んでおく。
- (2) 子どもが遊びに出るときには、危険な場所では遊ばないように注意をし、ふだんから事故を起こさないよう習慣づける。
- (3) 以上のことを守ることが大切で、危険な遊びや、危険な場所です。危険な遊びや、危険な場所です。危険な遊びや、危険な場所です。

- (2) 遊ぶときは大人と一緒に水の用意も忘れずに。花火遊びはあぶないからといって禁止すれば、子どもたちだけで隠れて遊び、かえって事故のもとになりかねません。大人も一緒に遊んでやり、子どもにも風の方向や残り火の始末などについてよく教えましょう。特にバケツ一杯の水を用意して消火を確かめる習慣をつけさせることがたいせつです。
 - (3) 花火を人や建物に向けたり、燃えやすい所で遊ぶことはやめましょう。ロケット・三連発などの花火が、屋根やダンボールの上に落ちたり、ネズミ花火が床下に入ったりして、火事になった例もあります。風の強くないときに危険のない広い場所遊びしましょう。
- また、たぐさんの花火に一度に火をつけてはいけません。打ち上げ花火などは途中で火が消えても、危険ですから筒をのぞいてはいけません。



かいらん板

成人式のお知らせ

来たる八月十四日中央公民館でおこなう予定であります。対象者を住民票で名簿を作成しますので、現在蓬田村に在住していても、現住所がこちらになければ通知がいきませんので、落ちておりましたら、中央公民館まで連絡下さい。

子ども会野球大会

村内子ども会対抗野球大会を八月上旬におこないますので、子ども会員はよく練習して、ケガのないようにして下さい。

県民体育大会のお知らせ

来たる八月二十一・二十二日の両日五所川原市を中心に県民体育大会が開催されます。

『青年の船』を体験して思うこと

越田 佐代子

感動の塊となって、あの白い船を降りてからもうずい分と日が経ったものだ。その間にたくさんの人から質問を受けた。

「外国の方き行ってたんだってが、良いとこだべのー」

「何ヶ国もまわってきたんだべ、行ぐって行がいねもの、何ほどともいい思いしたでべ」

「外国の人だは、何、食うもんだ」でも、私はそれらの質問に十分な解答を持っていない。何しろ、二ヶ月私が体験してきたのは、船での、海の上の生活であって、外国の地に足を降ろしたのは数えるほどしかなかったのですから。

それでも、初めての外国の印象は、五感にビリビリと感ずるものがあった。「港にはその国の素顔がある」と船長が言っていたと聞いた。港にはいるとその国の匂いがしてきて、港の水の色と、古びたレンガの家と、乾いた土埃色の空気は、その国の生活ぶりを思わせた。ひとつひとつの港の顔は違っていた。シンガポールの港は貿易港らしく、華やいで美しかった。スリランカの港はひびびいた田舎町の風情で親しげに迎えてくれた。インドの港は色彩がなくて、私達を拒んでいるかのように見えなかった。クウェートの港は空も高く、水の色もきれいで、スケールの大

きな豊かさが感じられた。パキスタンの港はカラフルで、遠くベルシャの市場の様子がのぞかれた。最後に見た港が、一番水の色が汚く、ひどい異臭がした。空は今までの空と一変して、灰色だった。

いきなり現実を引きもたされてしまった。それは東京港だった。改めて「汚染」ということが思いだされた。乾きと飢えに耐えながら生きていくインドの子供たちよりも、豊かな物質と破壊された自然の中を、こまめに動く日本人の子供の方がかわいそうだと思体で感じた。

話が東京に戻ってしまつた。もう一度出航しよう。こんどは「人」を見に。日本で見る外国人は、欧米人がほとんどだが、やはりずい分と違う。シンガポールは華僑の大活躍した国で、今も全人口の76%を中国系が占める。日本人によく似た、社交上手な「あきない人」である。スリランカの人には揚げ茶色と土色を混ぜて、乾いたような肌色をしている。よく笑い、陽気で、くつたくなのない素朴な人達の島である。大変な親日家です。どこでも大歓迎を受けたのです。インドの人達は悩んでいました。濃眉をひそめ、深く大きな目を曇らせて。人口、貧困、飢饉、宗教と問題は果てしない。しかし若者の

眼は一番燃えていた。直ぐにもという行動力がみなぎっていた。クウェートは岩手県ぐらいの面積しかなく、純クウェート人というものは人口の40%で、その人達は未来都市をも思わせる家に住み、バカデカイ車を足がわりに使っています。何せ油が水より安いとか……。

飲料水は工場で精製されています。雨は年間八ミリメートルしか降らないので、水は宝なのです。それにしても石油成金というのはすごいですね。パキスタンはまさに、クウェートとインドの中間で見られず、男ばかりで、私達をジロリとニラんでいました。女の人は本当にすっぽりとパールをかぶり顔をかくしておりました。アラビアンナイト風ですが、華やかな飾りはなく、質素でした。厳

しい回教の戒律が生活にしみこんで、男女の恋愛さえも許さない。それでも日に5回のお祈りは欠かさない律儀な人々。お祭り騒ぎが大好きで、気が小さいくせに偉大な柱は強い大和魂の好人種。日本人でも世界にはまだまだ数えきれないほどのたくさん人間がそれぞれの地方、それだけでも世界はすばらしい。船に乗ったこと、少しは視野が世界的になったのかな。船を降りた当初は、はるかかなたに思いがはせ、地に足のつかない日々をおくっていた。今になってようやく、船での体験が消化され、血となり肉となってきたようである。このすばらしい体験が個人だけのものであってはいけません。少しでも仲間、地域に還元したいと思う。

『青年の船』に参加して

越田 希悦

三月十日に、約二ヶ月間の研修、寄港地活動の課程を全て終了して東京晴海埠頭に着きました。長いようである。それはとても短い二ヶ月間でした。船を降りるとき、もつと長ければいいのに、とても淋しい、そんな気持ちでした。自分にとつて初めての外国、それはもう何もかもが珍しく、興味あるものでした。日本しか知らず、日本の感覚で見るとしか出来ない自分、外国へ行つたというそれだけで自

のバスや、電車などは、おそろしいほど自分でも正確だと感じました。でもこのスリランカに自分とはとても愛着感を持ちました。この美しい緑、この大自然の中に人間が生きて、自然と密着し、金はなくて貧しくてもその中にゆとりさえ感じられました。時間のルーサイズにも慣れると自分は、人間一度の人生、我々日本人のように、あくせく生きるより、大らかに強く大きく生きたい、そして自分をつめる。そう思った。スリランカの国、人々は、こんなことをボクに教えてくれた。もう出港する頃には、むしろように淋しくて涙が出てきました。

第三の寄港地であるクウェートでは、スリランカとは、まったく違った驚きを感じました。話には、聞いていたけど、目で見てほんとうにお金のある国だと思えました。砂漠の中真すぐ舗装された道路、大きくりっぱな家、クウェート人一人につき三台の車すべてがすばらしくやっぱ石油の国だなどと思えました。でもこの国では、クウェートを感じることは、できませんでした。食糧にしても、衣類にしても、物という物すべてが輸入品なのです。品物には、他国の名が印されておりほとんどなく味気ない気がしました。やはり自分にとって楽しく、学ぶことのできたのは、船内での生活でした。日本全国の青年たちが狭い船内において、同じカマの飯

を食べ、いろんな悩み事、問題などをとことん話し合う、自分たちでプログラムを組んで行なった行事、スポーツ大会、青年の船祭などなど、わずかの間に少ない材料で力の限りぶつかって行く。地上では、見ることも、味わうことも出来ない、いろいろな出来事、ひとつひとつ言いだせば限りのない

二十歳になったら国民年金です

年金だより

日本に住んでいる日本人は、満二十歳になると国民年金に加入することが義務となっています。ただし、すでに厚生年金や船員保険、又は各種共済組合などに加入している方は、国民年金へ加入する必要がありません。

国民年金は、老後の所得を保障する老齢年金のほか、病気やケガなどで障害者になったときの障害年金、働く父を亡くし母子家庭になったときの母子年金、両親が亡くなったときの遺児年金など七種類の年金で、あなたの今後の生活の支えとなります。

保険料は、月に千四百円（米年の四月から二千二百円）ですが、このほかに、月四百円の付加保険料を納めますと、その分だけ多い老齢年金が受けられます。

例えば、二十五年間保険料を納

程です。

そして今幾日か過ぎてみて思うことは、自分には、たくさんの方達が出来たんだ。それが一番うれしいことです。

青年協会のすいせんで青年の船に乗り、いろいろ勉強することが出来ました。ほんとうに有難うございます。

めた人の老齢年金は、月二万八千三百円（本年九月から月三万二千五百円に引き上げられる）ですが、付加保険料を二十五年間納めると、これに五千円加算されて、月三万三千五百円（九月から三万七千五百円）の老齢年金を受けることとなります。

国民年金に加入しますと、年金手帳が交付されますが、この手帳は、将来厚生年金や船員保険に加入した場合でも使用されますので大切に保管しましょう。

まだ加入手続きの済んでいない方は、今すぐ市町村国民年金係で手続きをとってください。

年金手帳を持つことは、社会人となったあなたのパスポートです。

年金額が

高くなります

国民年金制度は、年々改善が加

えられてきましたが、今年も年金額の引上げを中心とした法律改正が、さきの国会で成立しました。提出年金については、今年の九

月分から、福祉年金については、今年の十月分から、次のとおり年金額が引き上げられます。

一、提出年金

年金の種類	改正前	改正後(51,9から)
老齢年金		
一 二十五年加入	月二八、三〇〇円	月三二、五〇〇円
二 十年年金	月十七、六八八円	月二〇、五〇〇円
三 五年年金	月一三、〇〇〇円	月一五、〇〇〇円
障害年金		
一 級	月三五、二七五円	月四一、二五〇円
二 級	月二八、三〇〇円	月三三、〇〇〇円
母子年金(子一人)	月二八、三〇〇円	月三三、〇〇〇円
遺児年金(子一人)	月二四、一五〇円	月二六、二五〇円
二十五年	月二四、一五〇円	月二六、二五〇円
寡婦年金	月五、六六〇円	月六、五〇〇円
一、福祉年金		
年金の種類	改正前	改正後(51,9から)
老齢福祉年金	月二一、〇〇〇円	月一三、五〇〇円
障害福祉年金		
一 級	月一八、〇〇〇円	月二〇、三〇〇円
二 級	月二一、〇〇〇円	月二三、五〇〇円
母子	月一五、六〇〇円	月一七、六〇〇円
福祉年金(子一人)		

各種委員紹介

今回は選挙管理委員を紹介しま



張間 喜三郎
長科部落 委員長



八幡 貞雄
高根部落 委員



森 繁春
阿弥陀川部落 委員



大宮 勝
郷沢部落 委員

“離婚後も婚姻中の氏(姓)を名のることが出来ます”

このほど、民法等の一部を改正する法律が成立し、六月十五日から施行されました。これによると婚姻のとき氏を改めた人は、離婚をしても離婚後三ヶ月以内に戸籍法の定める届出をすれば、婚姻中に称していた氏を称することが出来ます。また、この法律施行前

三ヶ月以内即ち本年三月十日以降に離婚した人で既に婚姻前の氏にもどっている人も、本年九月十五日までに届出をすれば、婚姻中に称していた氏を再び称することが出来ます。

くわしいことは、法務局戸籍課または市町村役場でおたずねください。

戸籍の窓口

(市町村名は本籍の表示です)
四月受付分

- ◎お誕生おめでとうございます。
張間 綾子 (勇三・二女)
村上 里香 (与志一・長女)
八戸 覚 (則康・二男)
越田 恵 (正幸・長女)
- ◎ご結婚おめでとうございます。
小 鹿 重 一 (長科)
小田桐 成子 (長科)
- 坂本 功 (阿弥陀川)
川村 恵美 (宮城県)
川内 喜美男 (阿弥陀川)
梅田 さち子 (青森市)
川内 正務 (阿弥陀川)
蛭名 幸恵子 (平内町)
庄司 誠 (弘前市)
小野 幸子 (瀬辺地)

- 田中 悟 (瀬辺地)
- 川内 和子 (青森市)
- 坂本 邦雄 (中沢)
- 小久 紀子 (宮城県)
- 日野原 隆雄 (山梨県)
- 山本 美智子 (蓬田)
- 佐井 信悦 (広瀬)
- 葛西 照子 (青森市)
- 古館 幸男 (岩手県)
- 戸田 良子 (瀬辺地)
- 藤田 進 (中沢)
- 大岩 洋子 (今別町)
- 佐藤 芳孝 (十和田市)
- 木村 厚子 (蓬田)
- 武井 良光 (蓬田)
- 菅原 秀子 (宮城県)
- 武田 市雄 (秋田県)
- 張間 恵美子 (長科)
- 飯田 誠一郎 (瀬辺地)
- 棟方 あや子 (平館村)

- ◎お悔み申し上げます。
永沢 清澄 (長科)
張間 友三郎 (蓬田)

五月受付分

- ◎お誕生おめでとうございます。
柿崎 聡 (昇・二男)
王藤 治郎 (修治・長男)
松本 卓也 (順一・二男)
北山 康宏 (輝明・二男)
山館 恵子 (信博・長女)
久慈 麻美 (正明・二女)
細谷 忠 (勝成・二男)
森 在徳 (勝重・長女)
森 真理子 (康夫・二女)
柿崎 由紀 (惣一・長女)
高田 奈実 (利秋・長女)
- ◎ご結婚おめでとうございます。
小 鹿 義孝 (阿弥陀川)
若山 静子 (青森市)
木村 明 (広瀬)
葛西 さつ子 (車力村)
斎藤 孝三 (鶴田町)
柿崎 政子 (広瀬)
吉崎 和俊 (蓬田)
宮越 恵子 (弘前市)
坂本 濃教 (長科)
佐々木 よし子 (青森市)
細谷 昇 (蓬田)
三上 雪子 (黒石市)
森 倉義 (阿弥陀川)
宮里 スエ子 (沖縄県)

- 小 鹿 誠 (長科)
小 鹿 美喜子 (長科)
山本 裕一 (兵庫県)
森 恵子 (阿弥陀川)
時田 正幸 (北海道)
青木 晶子 (阿弥陀川)
赤田 勇人 (青森市)
越田 島子 (広瀬)

◎お悔み申し上げます。

- 川崎 市松 (広瀬)
角山 ユキ (蓬田)
小野 とも (郷沢)
工藤 きさ (蓬田)

六月受付分

- ◎お誕生おめでとうございます。
山谷 紀子 (勝雄・長女)
森 直子 (司・三女)
中村 公一 (聡・長男)
越田 健 (勇一・長男)
畠山 一樹 (義行・長男)
吉田 信二 (光信・二男)
室谷 勝 (幸年・二男)
- ◎ご結婚おめでとうございます。
田中 清 (瀬辺地)
田中 世子 (平内町)
溝江 清美 (青森市)
坂本 ヌニ (中沢)
下江 敏文 (広島県)
津島 幸子 (蓬田)
下川原 出 (北海道)
坂本 隆子 (中沢)

- 田中 進 (広瀬)
- 木賊 喜美枝 (青森市)
- 柴田 信二 (福井県)
- 藤本 キミエ (長科)
- 川崎 勝則 (広瀬)
- 田中 はな子 (瀬辺地)
- 渡部 鉄善 (郷沢)
- 吉田 あき子 (中沢)
- 岡野 道商 (宮城県)
- 小松 のり子 (蓬田)
- 石岡 富雄 (蟹田町)
- 田中 ひさ子 (蓬田)
- 福田 キワ (郷沢)
- 山館 洋一 (瀬辺地)
- 坂本 琢全 (阿弥陀川)

蓮門原稿募集

ニュース、ご意見、ご要望がありましたら、原稿をお寄せ下さい。

中央公民館
電話七十六番

